【R8年度　全国学力状況調査】～分析結果～　相模原市立旭中学校

旭中学校の生徒は、高い家庭学習習慣（平日1時間以上勉強する生徒75.1%）や英語（学力5.9）・数学（学力5.6）における優秀な成果を有しています。しかしその一方で、国語に対する強い苦手意識（「好き」10.1%、「得意」11.0%）や深刻な読書離れ（読書を全くしない生徒41.4%）が顕著な特徴となっています。こうした言語機会や語彙の不足は、単なる国語の関心低下にとどまらず「文章の骨子や要点を素早く捉える力」や「思考や根拠を整理して論理的に記述・文章化する（書く）力」の不足という具体的な学習課題として表出しています。

---

1. 長文解読における処理速度と語彙力の不足

国語の調査において解答時間が「足りなかった」と感じた生徒は37.1%（全国平均20.4%）に達しています。日常的な読書習慣の停滞や新聞離れ（新聞を読まない生徒89.0%）により語彙力や文章理解力が十分に蓄積されておらず、長文から必要な情報を迅速に抽出・整理する「要点把握力」の弱さが時間的焦りにつながっています。

2. 情報の整理・統合における課題

生徒はインターネット等での情報収集には65.8%が自信を示す一方で、「情報の整理（図や表などにまとめること）」に自信を持つ生徒は32.9%にとどまっています。膨大な情報や文章の中から重要要素を抜き出し、構造化して要約するプロセスのハードルの高さが窺えます。

3. 対話から論述への接続における課題

また、文章を読み解くことへの負担感に加え、自身の考えや根拠を適切な構成で「文章化する（書く）」アウトプット活動に対して強い心理的抵抗が存在します。

話し合いを通じて考えを深める対話的学び（45.1%）やプレゼンテーション作成（51.9%）では一定の強みが見られますが、その成果を「論理的な文章としてまとめ、記述する」段階に移行した際、文脈の整理や根拠の明示が不十分になる課題があります。

【R8全国学力状況調査】～まとめ～

相模原市立旭中学校の調査結果によると、生徒は学習習慣が定着しており、特に英語や数学において高い意欲と学力を示しています。また、教員との信頼関係が厚く、学校全体に高い心理的安全性が保たれていることが大きな強みです。その一方で、国語に対する苦手意識や読書習慣の欠如が顕著な課題として浮き彫りになっています。さらに、スマートフォンの長時間利用による生活リズムの乱れや、学校図書館の利用率の低さも改善すべき点です。今後は、良好な対人関係を維持しつつ、読解力の向上と規則正しい生活習慣の確立が期待されています。国語と英語の分析結果から見られる強みと弱みは以下の通りです。

---

1. 英語（最大の強み）
   - 強み
     - 高い学力と学習意欲: 学力スコア5.9（全国5.0）、意識スコア6.0（全国5.0）、学習活動スコア5.5（全国5.0）と、全領域で全国・県平均を大きく上回る学校全体の最大の強みとなっています。
     - 高い得意意識と好感度: 英語が「好き」と答えた生徒は35.0%（全国24.6%）、「得意」と答えた生徒は24.9%（全国17.5%）と、全国を大きくリードしています。
     - 実用性の理解と活発な授業参加: 「将来役に立つ」と感じている生徒が71.7%（全国60.2%）に達し、授業中に英語で問答や意見交換を行う活動割合も55.3%（全国42.3%）と非常に活発です。
   - 弱み・課題
     - 英語教科単体での顕著な弱みは見られませんが、校内全体の読書習慣の停滞（語彙力不足）が、高度な文脈理解や記述表現における課題につながる可能性が示唆されています。

---

2. 国語（主な課題）

- 強み
  - 平均以上の基礎学力: 学力スコア自体は5.3（全国5.0、県5.2）であり、全国平均以上の学力水準を維持しています。
- 弱み・課題
  - 関心・学習意識の低さ: 意識スコアが3.9、学習活動スコアが4.0と全国基準（5.0）を大きく下回っています。国語が「好き」な生徒はわずか10.1%（全国22.3%）、「得意」な生徒は11.0%（全国15.8%）にとどまり、強い苦手意識や関心の低さが顕著です。
  - 読解スピードと解答時間の不足: 調査において解答時間が「やや足りなかった」「全く足りなかった」と感じた生徒が37.1%に達しており（全国20.4%）、長文を素早く読み解く力や語彙力の不足が時間的焦りにつながっています。
  - 読書離れとの連動: 普段「全く読書をしない」生徒が41.4%にのぼり、活字に親しむ機会の少なさが国語への苦手意識や文章理解力に影響を与えています。